リレー訪問
農場に勤める
誇りと夢

第17回
今は、夢より足元を見る時期……の巻

各地の農場には優秀な若手が勤務している。数ある職場のなかで、農場に勤めることを選んだ彼らは、農業や勤務先をどのように見つめ何を感じているのか。前回に引き続き、滋賀県でブルーベリーを栽培している㈲ブルーベリーフィールズ紀伊國屋の大川勝巳氏と兵庫県でトマトやキュウリなどの野菜を生産している㈲中西ハウスセンターの濵友子氏の対談を紹介する。

大川　農場の事務所がある建物はマンションですよね。こちらでマンション経営もされているんですか?

濵　ハイ。農場の周りが宅地化してきたこともあると思いますが、震災の後にマンション経営も始めたと聞いています。

大川　宅地化していく地域での農業は、農業一本でいくか離農するかのどちらかしかないと思っていました。両方をやることもできるものなんですね。

濵　従業員の部屋もこのマンションにあるんですよ。社長の家族と従業員がみんな一緒に食事もするので、形としては農場に住み込んでいるような感じですね。家賃と食費もかからないですし、待遇はいいですよ(笑)。

大川　家賃がかからないのはうらやましいですね。でも、社長の家族と一緒に食事というのは、正直、気まずいような気もするんですけど(笑)。

濵　最初はそういう気持ちも少しありましたね(笑)。でも、もう馴れました。

大川　就農するときは、やっぱり待遇面も考慮したんですか?

濵　いえ、就農先の条件として特別こだわった点というのはないんです。気にしたのは、野菜をつくれる農場ということくらい。この農場にしたのは、ファーマーズフェアで説明を聞き、研修も受けてみて、ここでなら続けていけるような気がしたからなんです。

大川　そもそも農業をやってみよう



今月のホスト

大川　勝巳（29歳）

出　　身：岡山県高梁市
所　　属：㈲ブルーベリーフィールズ紀伊國屋
雇用形態：社員
備　　考：1978年生まれ。2002年、近畿大学農学部卒業後、大阪の焼肉店に就職し、2年間勤務。04年、農業を志し同社を退社、専修学校日本農業実践学園に入学。1年間、野菜栽培を学ぶ。05年、㈲ブルーベリーフィールズ紀伊國屋に入社。現在、農園部チーフを務める。

と思ったきっかけは何だったんですか?

濵　それが、そんなにはっきりとした動機があったわけではないんです。ただ、わりと子供のころから、なぜか農業に興味はあったんですよ。お花屋さんやケーキ屋さんになりたいと思うような感覚かな。気付いたらやってみたいと思うようになっていました。

大川　成長しても、それは変わらなかったわけですか。

濵　ハイ。でも、実家は農家ではないですし、農作業をしたこともありません。農業をする上で何か手掛かりが必要だと思って、まず農業大学校に行くことにして、それから就農したんです。

大川　就農前は農業にどんな印象を持っていたんですか?

濵　離農する人がいるくらいだから、楽しいだけではないだろうなとは思っていました。でも、農業大学校はそれなりに楽しかったですし、それまでの農業に対する気持ちが変わるようなこともありませんでした。実際、農業がどれだけやりがいがあるものなのか、自分がどれだけできるのかもわからなかったわけですが、だからこそ、私にもできるかもしれないと思えたんでしょうね。

大川　でも両親は驚いたんじゃないですか。反対されませんでした?

濵　猛反対されましたよ。ほかの選択肢も考えた上で決めてみないかって諭されたりして。両親は、農業は農家が家族でするものと思い込んでいて、会社組織として活動している農場もあることを知らない。だから、私が農業について学んだところで、将来、何の役にも立たないだろうと思ったようです。大川さんは家族の方に反対されませんでした?

大川　いえ、全然。「人様に迷惑をかけなかったらいい、元気にやってくれ」、それだけ。といっても、前々から就農に向けて段取りを考えていて準備も勝手に進めていたので、反対されたとしてもあきらめなかったでしょうね。

濵　そうですよね。反対されてあきらめるくらいなら農業はしませんよ。

大川　いつの間にか農業に関心を持っていたとはいえ、やっぱり、それくらい強い想いはあったんですね。

濵　私が頑固で人の意見を聞かないだけなのかもしれませんけどね(笑)。両親も今はあきら半分、私の好きにしたらいいっていう感じだと思いますよ。

大川　実際、就農してみてイメージと違うなって思うことはありませんでした?

濵　栽培の奥深さを再認識することはありましたけど、農業がイヤになるような悪い意味でのイメージと違いはなかったですね。基本的に満足しています。あえて言えば、一年中忙しかったことくらい。農閑期のような時期があるんじゃないかと思っていたんですけど。

大川　休みはどういった取り方になっているんですか?

濵　5人のスタッフが平日に1人づつ交代で休めるようになっています。でも、社長と奥さんは365日と言っていいくらい働いていますから、私達はまだいい方なんです。

大川　かなり忙しそうですね。濵さんが担当している仕事で、特に大



今月のホスト

濵(はま)　友子(24歳)

出　　身：京都府木津川市
所　　属：㈲中西ハウスセンター
雇用形態：社員
備　　考：1983年生まれ。2003年、京都府立農業大学校卒業後、㈲中西ハウスセンターに入社。現在、入社4年目。出荷調整作業を中心に、栽培から販売まで携わる。



中西ハウスセンターで生産した野菜は、宝塚市内の大手外食店でも看板食材として大きく紹介されている。

変さや難しさを感じる仕事って何ですか？

濵　農業に限ったことではないんですが、人に説明することの難しさは痛感しています。パートさんに作業をお願いするにしても、やってもらいたいことが伝わっていると思っていたら、実際には伝わってないことがよくあるんです。最近、それで失敗することが多いんですよ。自分の基準だけで判断して、聞く側に対する配慮が足りないからこういうことが起きるんですね。今は、丁寧に説明するように心がけています。

大川　人に教えると自分がわかっていなかったことに気づくこともありますよね。

濵　そういうこともありますね。思ってもみない視点から質問されることもありますから。でも、こういったやり取りをしながら仕事を進めていくことに、やりがいを感じているところもあります。

大川　農業の現場に携わるうちに自分なりの夢が膨らんで、やりたいことも出てきたりしませんか？

濵　その点は、そうでもなくて、私はまだ、そういうことを言える段階ではないと思っているんです。

大川　というと？

濵　きちんと現実を踏まえた上で夢を描かないと単なる空想、それを社長の奥さんは「形のないロマン」っておっしゃるんですけど、それで終わってしまうと思うんです。だから、それなりの根拠がある夢を描かないと意味がない。私の場合、独立したいと言ったところで、それを実現できる要素は全然見当たらないですし、独力で何かを実現できるわけでもない。今は、夢よりも自分の足元に目を向けなければいけない時期。とにかく目の前にある仕事に取り組んでいこうと思っています。それが農場にとってもプラスになるのであれば、今はそれでいいかなと。

大川　なるほど。

濵　私の担当業務はもともと奥さんがされていた仕事を引き継いだものなんですが、奥さんの負担が軽くなったことで、その分の力をほかに向けることができるようになったようなんです。まずは、自分の役割であるそういった仕事をこなして、できるだけ奥さんの負担を軽くできるようにもしたいと思っています。

大川　そこまで自分の役割を中心に考えられるというのは、ある意味、逞しいですね。奥さんとは、そういったことも、よく話し合われるんですか？

濵　普段の何気ない会話の中にも、農場の今後のことや改善しないといけないことなど、大事な話が出てくるんです。しかも、その場の話しだけで終わるのではなくて、きちんと実現する方向に進んで行く。だから目が離せないんですよ。そうやって日頃から鍛えられているので、私も少しは逞しくなったかもしれませんね。本当にいろいろと教わりましたから。（笑）

大川　すごく感謝しているんですね。

濵　ハイ。大げさな言い方かもしれませんが、私が今まで教えてもらった分の恩返しをしないことには、この先に進めないという気もしているんです。そういう奥さんに、これからもついて行くわけですから、私ももっと頑張っていこうと思います。

